

## 21 その他の事業

### ○ 横浜市社会福祉審議会

#### 1 設置目的

社会福祉に関する事項（児童福祉及び精神障害者福祉に関する事項を除く。）の調査審議・市長への意見具申等のため設置（社会福祉法第7条第1項により都道府県・政令指定都市・中核市に設置することとなっています。）

#### 2 根拠法令等

社会福祉法、社会福祉法施行令、横浜市社会福祉審議会条例、横浜市社会福祉審議会運営要綱

#### 3 審議会の構成

- ・審議会は、社会福祉法第8条第1項により委員35人以内で組織することとなっており、同第9条により市会議員、社会福祉事業に従事する者、学識経験のある者のうちから市長が任命します。
- ・委員数は23人、委員の構成は次のとおり。  
市会議員（3人）、社会福祉事業に従事する者（10人）、学識経験のある者（10人）

#### 4 任期

3年（平成22年1月12日～平成25年1月11日）

#### 5 専門分科会及び審査部会

- (1) 専門分科会  
民生委員審査専門分科会、身体障害者福祉専門分科会、高齢者福祉専門分科会
- (2) 審査部会  
身体障害者の障害程度の審査に関する調査審議のため身体障害者福祉専門分科会に「身体障害者障害程度審査部会」を設置。
- (3) 平成23年度開催状況  
民生委員審査専門分科会：2回  
身体障害者障害程度審査部会：12回

#### 6 審議会の開催状況

- (1) 回数：毎年1～2回程度開催。
- (2) 平成23年度実施状況：1回開催  
議題：社会福祉審議会答申（平成23年3月7日付）への取組について  
第5期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について  
障害福祉計画（第3期）の策定にかかる横浜市障害者プラン（第2期）の改定について  
平成24年度健康福祉局予算（案）について

## ○ 福 祉 調 整 委 員 会

### 1 事業開始

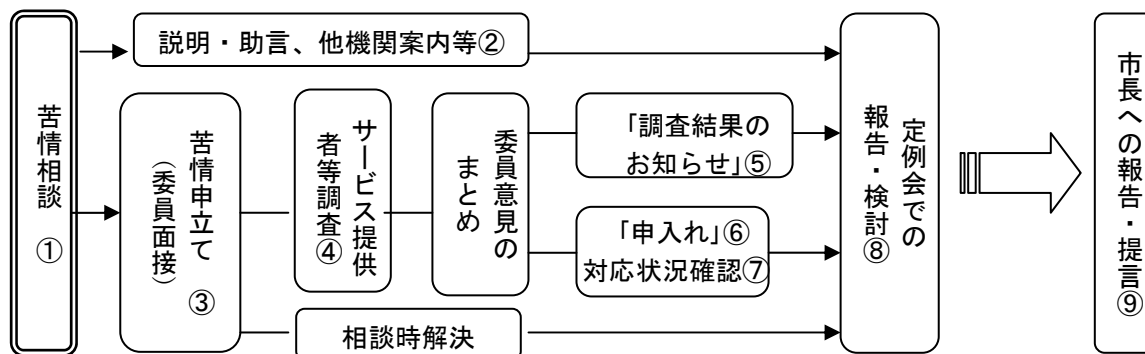
平成7年7月1日

### 2 事業の目的

横浜市の福祉保健サービスに対する市民からの苦情・相談を受け、中立・公正な立場で、所管課や事業者等に対して調査・調整を行うとともに、福祉サービスの質の向上を推進する活動を実施しています。

### 3 事業概要

#### (1) 苦情相談の流れ



- ① 様々な苦情相談等が寄せられます。  
電話、FAX、Eメール、手紙で相談が寄せられます。直接来所いただく場合もあります。
- ② 相談内容に応じて、制度等の説明・助言や担当窓口の案内等を行います。
- ③ 横浜市福祉調整委員が面接により苦情相談を直接聴取します。
- ④ 市の所管課や民間事業者に対し、調査・調整を行います。
- ⑤ 調査結果に委員意見を付して苦情相談者に回答します。
- ⑥ サービスの改善等が必要な場合に、市の所管課や民間事業者に意見の申入れを行います。
- ⑦ 申入れ後、おおむね2か月後に対応状況の確認を行います。
- ⑧ 定例会で対応案件について報告し、今後の対応について検討します。
- ⑨ 市長に対して委員会の運営状況を報告し、必要に応じて制度の改善等について提言します。

#### (2) 福祉調整委員

9人（内訳 学識経験者5人 医師1人 弁護士1人 市民委員2人）

### 4 事業実績

表1 苦情相談等の件数

分 類		22年度	23年度
1 福祉保健サービスに関するもの	件 数	713件	743件
	月平均	59件	62件
2 福祉保健サービス以外のもの ※1	件 数	89件	58件
	月平均	7件	5件
3 委員会制度に関するもの ※2	件 数	12件	6件
	月平均	1件	0.5件
合 計	件 数	814件	807件
	月平均	68件	67.5件

※1 福祉保健サービス以外の苦情相談・問い合わせ等。

※2 他都市からの照会等。

表2 苦情相談等の対応分類（福祉保健サービスに関するもの）

分 類		22年度	23年度
1 苦情申立て（福祉調整委員面接相談） ※1	件 数	12件	13件
2 説明・助言等 ※2	件 数	380件	429件
3 他機関案内 ※3	件 数	63件	67件
4 福祉保健サービス提供者との調整 ※4	件 数	258件	234件
合 計	件 数 月平均	713件 59件	743件 62件

※1 委員が面接相談したもの。1人あたりの相談時間はおおむね1～1時間半となっている。

※2 福祉保健サービスの制度や内容に関して説明や助言を行ったもの等。

※3 適切な福祉保健サービス提供者（市又は事業者）を案内したもの。

※4 相談者の状況を考慮し、迅速な解決を図るために福祉保健サービス提供者（市又は事業者）と直ちに調整を行ったもの。

表3 苦情申立て（委員面接相談）の内訳

調 整 区 分		22年度	23年度
苦情申立て（委員面接相談）	件 数	12件	13件
	月平均	1.0件	1.1件
A 市又は事業者に対し申入れを実施したもの	件 数	10件	13件
B 申入れを行わなかったもの	件 数	0件	0件
C 面接相談時解決・終了	件 数	2件	0件
D 面接相談後に取り下げられたもの	件 数	0件	0件

表4 面接相談分野の内訳

	高齢福祉 ・介護保険	障害福祉	児童福祉	生活保護	その他 (保健等)	計
22年度	7件	3件	1件	1件	0件	12件
23年度	4件	5件	2件	2件	0件	13件

## ○ 墓地等の設置紛争の調整

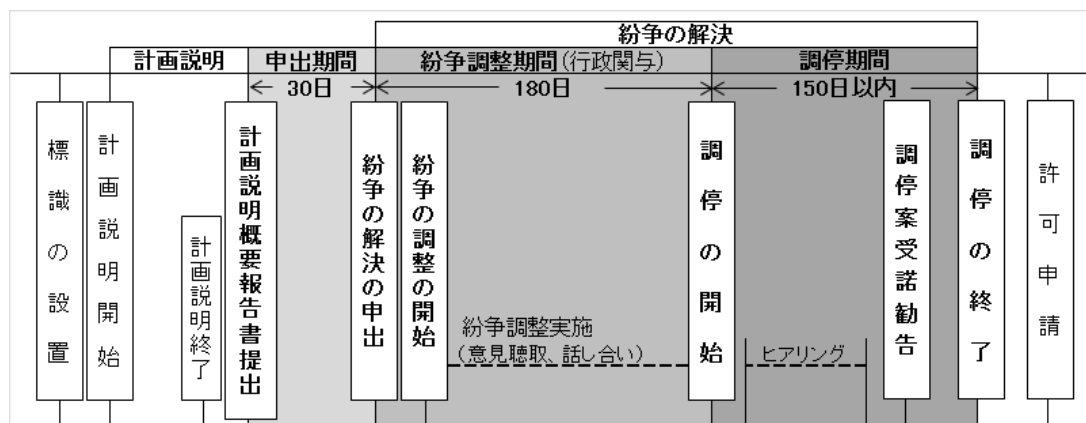
### 1 概況

墓地等の設置予定地の周辺住民と事業者との間で、墓地等の設置に係る問題の解決が困難な場合に、申出に基づき行政による紛争の調整（あっせん）や第三者機関による調停を行います。

### 2 紛争解決の制度

「横浜市墓地等の経営の許可等に関する条例」（平成 23 年 9 月 1 日施行）に基づき、紛争の調整及び調停の制度を設けています。

<紛争調整の流れ>



### 3 横浜市墓地等設置紛争調停委員会

#### (1) 委員総数

10 人（内訳：弁護士 3 人、学識経験者 4 人、民事調停委員 3 人）

#### (2) 調停小委員会

3 人（上記委員のうち 3 人 1 組で 1 案件の調停に対応する）

委員会等開催件数

年 度	横浜市墓地等設置紛争調停委員会開催件数	調停（小委員会）件数	あっせん(紛争の調整)件数
平成 19 年度	1	1	1
平成 20 年度	1	0	1
平成 21 年度	1	0	0
平成 22 年度	1	1	0
平成 23 年度	1	0	0

○ 横浜市社会福祉協議会に対する補助及びびに事業委託

1 概況

本市における社会福祉事業の振興や社会福祉事業施設・団体の育成等の活動を行っている社会福祉法人横浜市社会福祉協議会の活動経費を補助するとともに、同協議会に地域ケアプラザ等の管理・運営を委託しました。

2 事業内容

(1) 補助事業（平成 23 年度決算額 5,690,550,858 千円）

- ア 市社会福祉協議会の運営
- イ 福祉教育推進事業の実施
- ウ 横浜市社会福祉大会の開催
- エ 障害者支援センターの運営
- オ 横浜生活あんしんセンターの運営
- カ 福祉バスの運営
- キ 区・地区社会福祉協議会活動の支援
- ク 民生委員・児童委員活動の支援
- ケ ボランティア・市民活動の支援
- コ 民間社会福祉施設の整備支援
- サ 民間社会福祉施設の運営支援
- シ その他

(2) 委託事業（平成 23 年度決算額 1,759,958,757 千円）

- ア 福祉保健研修交流センター「ウィリング横浜」の管理・運営
- イ 社会福祉センターの管理・運営
- ウ 障害者研修保養センター「横浜あゆみ荘」の管理・運営
- エ 地区センターの管理・運営
- オ 老人福祉センターの管理・運営
- カ 地域ケアプラザの管理・運営
- キ その他

○ 災 害 救 助

1 災害見舞金の交付

市内で発生した火災等の被災者に対し、「横浜市災害見舞金・弔慰金交付要綱」に基づき、見舞金等を交付しました。

交付状況 (平成 23 年度) (金額単位：円)

区 分	単身世帯	2人以上世帯	非 住 家	金 額
全焼 (壊)	30	36	1	2,730,000
半焼 (壊)	52	84	13	3,820,000
床上浸水	7	3	4	170,000
冠水家屋	22	7	-	360,000
死 亡	18		-	1,800,000
重 傷	7		-	250,000
合 計				9,130,000

※ 非住家については自然災害の場合のみ交付します。

## ○ 戦没者遺族等の援護

### 1 概況

本市では戦没者の追悼式を開催し、横浜市遺族会への補助金を交付する等遺族の援護に努めています。  
また、各区では戦没者遺族等に対する年金、弔慰金、特別給付金等の請求書の受理、裁定通知書等の交付を行なっています。

### 2 横浜市戦没者追悼式

平成23年11月1日第60回横浜市戦没者追悼式を、神奈川区三ツ沢公園内横浜市慰霊塔前広場において、来賓及び代表遺族500人が参列し、実施しました。

### 3 補助金

戦没者遺族等援護のため、次の団体に対し補助金を交付し、福祉の増進を図っています。  
平成23年度 横浜市遺族会 900千円

### 4 年金、弔慰金、特別給付金

戦没者遺族等に対する年金、弔慰金、特別給付金等の請求及びこれに伴う年金証書、弔慰金裁定通知書、特別給付金裁定通知書の平成23年度における交付状況は次のとおりです。

- (1) 戦傷病者戦没者遺族等援護法  
平成23年度は実績がありません。
- (2) 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金支給法  
ア 請求書進達件数 127件  
イ 裁定通知書交付件数 82件
- (3) 戦没者等の妻に対する特別給付金支給法  
平成23年度は実績がありません。
- (4) 戦没者の父母等に対する特別給付金支給法  
平成23年度は実績がありません。
- (5) 戦傷病者等の妻に対する特別給付金支給法  
ア 請求書進達件数 58件  
イ 裁定通知書交付件数 47件

○ 援 護 対 策 事 業

1 ホームレス自立支援事業

市内の道路・公園・河川敷など屋外で生活する者等で自立への援助を必要とする者に対して、自立支援施設「はまかぜ」において、生活相談・支援及び就労支援等を通じて自立を支援します。

(1) 支援内容

宿泊援護	食事・衣類・日用品等の提供 入所期間 原則30日以内（最大1年以内）
自立援護	生活相談及び支援、居宅確保等への支援 公共職業安定所から派遣された職業相談員による職業相談・紹介
健康診断	健康診断の実施、健康相談

(2) 事業実績 (平成23年度)

	定員	入所延数
自立支援施設	250	1,257

2 ホームレス総合相談推進事業

昭和54年11月から関内駅周辺を中心に、ホームレスに対する必要な支援等を行う目的で夜間街頭相談を開始し、平成6年11月からは、関係局区と自立支援施設が連携し、毎月2回程度、関内駅周辺及び横浜駅周辺等において実施してきました。

平成16年4月には、ホームレス巡回相談室を設置し、夜間街頭相談との統合を図るとともに、関係機関と連携し、相談員及び看護師等が市内の巡回を行い、ホームレスに対して面談の実施や必要な支援、健康相談を行っています。

(1) 巡回相談室実績 (平成23年度実績)

相談件数	自立支援施設等入所	病院への搬送	自宅・病院等への訪問
1,948	202	1	2

(2) 夜間街頭相談 (平成23年度実績)

実施区域	実施回数	入所人数
関内駅周辺	12回	56人
横浜駅周辺	12回	43人

3 ホームレス衛生改善事業

中区寿町周辺簡易宿泊所の労働者及び住民の衛生状態の改善を図るため、平成16年8月から横浜市寿福祉プラザ1階にシャワー室を設置し、寿地区緊急援護対策事業により給食援護等を受けた者を対象に入浴の援護を行っています。

平成23年度は、延べ716人の利用がありました。

平成23年度末で事業を終了しました。

4 ホームレス保健サービス支援事業

市内の公園・道路等に起居するホームレス等に対し、看護師等が巡回相談を行い、ホームレスの健康状態を把握し、必要に応じて関係機関と連携することにより、ホームレスへの保健・医療を確保するとともに、自立支援に向けた働きかけを行いました。

ホームレス保健サービス支援事業実績 (平成23年度実績)

巡回相談実施日数	延べ 90日
面接人数	延べ 114人
医療機関への引継件数	延べ 3件

5 寿地区緊急援護対策事業

中福祉保健センターに相談来所した者に対して、緊急的な援護措置として食券・宿泊券等を支給していましたが、平成23年度末で新規対象者への発行を終了しました。

6 寿地区対策事業

中区寿町周辺の住居の無い方及び簡易宿泊所宿泊者等の課題解決を図るため、横浜市寿福祉プラザ相談

窓口において、生活各般の相談を行っています。

また、寿生活館の一部を児童対象施設（3階）及び成人対象施設（4階）として地域住民及び勤労者の福祉の向上を図るため、管理運営を指定管理者である財団法人寿町勤労者福祉協会が行い、住民相互の交流の場として開放しています。

- (1) 相談事業 ※件数の集計方法が19年度から変わりました。 (平成23年度)

相談 件数	日平均相 談者数	相 談 内 容								
		協働	介護予防	障害	児童	結核支援	17区ケース	関係機関	公営住宅	その他
2,803	12	16	32	27	17	134	1,000	805	103	916

- (2) 指定管理者による管理運営事業（平成23年度）

施設区分		利用者数
3階	女性・児童対象施設	31,592
4階	成人対象施設	176,962

## 7 寿地区年末年始対策事業

寿地区に居住する者等で、年末年始の休庁期間中の援護を必要とする生活に困窮する者に対して臨時宿泊所を設置し、給食、宿泊の援護を実施しました。

また、本事業と連携し、健康安全課事業である結核健診を実施しました。

- (1) 対策期間  
平成23年12月28日から平成24年1月3日まで
- (2) 相談窓口開設日及び時間  
12月28日・・・・・・・・・・ 午前9時から午後5時まで
- (3) 相談場所  
横浜市寿福祉プラザ改修棟1階
- (4) 相談取扱状況  
来所人数・・・・123人

援護内容	件
臨時宿泊所入所	46
その他の援護	0
事前相談	55
生活保護（医療）	0
健診のみ	17
相談のみ	0
その他	5

※重複有

(参考)結核健診

- ア 実施日 平成23年12月28日 午前9時から午後3時まで
- イ 受診者数 68人



## ○ 職 員 の 研 修

保健・医療・福祉事業に従事する職員に対して、職員の執務能力の発揮と資質向上を図り、局事業の円滑な推進に寄与するため、課題に適応した研修の企画、実施及び各種研修機関等への派遣を行いました。

### 1 研修の実施

平成 23 年度 229 講座 延 13,965 人

### 2 研修機関等への派遣による研修

平成 23 年度 395 講座 延 1,188 人

注) 保健・医療・福祉事業に従事する区職員を対象とした研修を含みます。

## ○ 社会福祉法人・施設の指導監査等

### 1 概況

監査課では、横浜市が所管する社会福祉法人（こども青少年局所管分を除く）や社会福祉施設等に対し、適正な経営・運営の確保を目的として、所管課との連携・協力のもと指導監査を実施しています。

また、新規に社会福祉法人を設立する際に認可を行うほか、補助を受けて整備される社会福祉施設等についての検査等を行っています。

### 2 社会福祉法人の数、及び認可の数（健康福祉局所管）

年 度	法人数	認可数	備 考
平成 22 年度末	150	0	(県から移管 1、こども青少年局から移管 1)
平成 23 年度末	149	1	(国へ移管 1、県へ移管 1)

### 3 指導監査等実施状況（23 年度実績）

#### (1) 社会福祉法人に対する指導監査

区分	法人数	実査	23 年度末法人数
高齢者関係(介護老人保健施設除く)	72	30	70
介護老人保健施設	2	1	2
グループホーム・ホームヘルプ	10	6	10
障害者関係	44	22	45
生活保護・いのちの電話関係	3	2	3
市・区社会福祉協議会	19	11	19
合計	150	83	149

#### (2) 社会福祉施設等に対する指導監査

区分	施設種別	監査対象施設数 ※ 1	運営主体別			実査	23 年度末施設数
			市立	社会福祉法人	その他		
高齢者関係	特別養護老人ホーム	131	0	131	0	75	133
	養護老人ホーム	6	2	4	0	2	6
	軽費老人ホーム	11	0	11	0	6	11
	短期入所施設	7	0	5	2	5	7
	介護老人保健施設	80	0	9	71	27	80
	地域ケアプラザ ※ 2	122	0	122	0	33	128
	小計	357	2	282	73	148	365
障害者関係 ※ 3	指定障害者支援施設	22	1	21	0	12	22
	旧精神障害者社会復帰施設	2	0	0	2	2	2
	身体障害者社会参加支援施設	6	0	4	2	0	6
	小計	30	1	25	4	14	30
生活保護等	救護施設	3	0	3	0	2	3
	更生施設	3	0	3	0	2	3
	隣保事業	1	0	1	0	1	1
	相談事業	2	0	1	1	0	2
	小計	9	0	8	1	5	9
合計	396	3	315	78	167	404	

※ 1 監査対象施設数は、9 月末日現在で開所済みまたは開所予定の施設の数である。

※ 2 地域ケアプラザは、高齢者関係において計上した。

※ 3 障害者自立支援法において施設扱いではなくなった指定障害福祉サービス事業所等(旧通所施設)に対する実地指導は、平成 20 年度から障害支援課が実施し、監査課は応援として従事するようになったため、別掲とした。

(3) その他実地指導等

区分	施設種別	監査対象施設数 ※1	運営主体別			実査	23年度末施設数
			市立	社会福祉法人	その他		
障害者関係 ※4	指定障害福祉サービス事業所	144	5	98	41	44	155
	旧知的・身体・精神障害者小規模通所授産施設	16	0	15	1	9	12
	障害者地域活動ホーム(法人型・機能強化型) ※5	39	0	17	22	10	39
	精神障害者生活支援センター	16	0	5	11	4	16
	地域活動支援センター精神作業所型	69	0	5	64	14	74
	小計	284	5	140	139	81	296
生活保護関係	無料低額宿泊事業	42	0	0	42	9	41
	無料低額診療事業	16	0	6	10	16	22
	無料低額老健事業 ※6	11	0	8	3	2	11
	生保指定医療機関 ※6	13	0	0	13	12	13
	生保指定介護機関 ※6	3	0	0	3	3	3
	小計	85	0	14	71	42	90
合計		369	5	154	210	123	386

※4 障害支援課所管の事業に対する実地指導の件数等を掲載した。

※5 障害者地域活動ホームについては、平成22年度から社会福祉法人型のみを対象とし、機能強化型は対象外とした。

※6 無料低額老健事業、生保指定医療機関及び生保指定介護機関は、監査実施数を計上した。

(4) 施設整備に係る審査・検査等

区分	審査・検査数
高齢者関係	212
障害者関係	31
地域ケアプラザ等	3
保育・児童関係	68
合計	314

4 社会福祉法人施設審査会 開催件数

社会福祉法人の設立認可や補助金の支出先の選定等について審査を行う横浜市社会福祉法人施設審査会を開催しています。

	平成22年度	平成23年度
開催件数	6	6

## ○ 放射線対策の推進

### 1 概況

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故により、本市においても放射性物質の飛散、降下が確認されるなど、放射性物質に対する市民の不安が高まる状況となりました。そのため、事故直後の 3 月 14 日から保健所を中心に各区局で相談対応を開始し、3 月 23 日からは専用電話相談窓口を設置しました。このほか、広報よこはま特別号「放射線特集」の発行、市民シンポジウムの開催、平成 24 年 3 月末時点で約 4,300 施設の空間線量の測定、市内流通食品・小学校給食食材の放射性物質検査、ごく局所的に周囲より高い放射線量が測定される、いわゆるマイクロスポットの対応、さらに測定機器の無料貸出など、市民の安全対策や不安の払しょくに向けて、さまざまな取組を実施しています。

### 2 主な実施状況（件数は平成 24 年 3 月末時点）

#### (1) 放射線対策部の設置（平成 23 年 6 月 1 日）

測定等、今後の放射線対策に局横断的に対応していくため、横浜市災害対策本部の中に、副市長を対策部長とする放射線対策部を設置しました。

平成 24 年 3 月 27 日には、震災後、1 年が経過したことにより、横浜市災害対策本部を廃止しましたが、放射線に対しては、引き続き、より一層の安全・安心を確保し、もって市民の不安を解消することを目的として、横浜市放射線対策本部として強化しました。本部の事務局は引き続き健康福祉局健康安全課に置いています。

#### (2) 正しい知識と情報を伝えるための取組

ア 放射線に関する健康・食品電話相談窓口を開設（3 月 23 日）電話件数約 5,000 件

イ 放射線に関するシンポジウム（9 月 5 日）（11 月 8 日）参加人数約 1,800 人

ウ 広報よこはま「震災対策特別号（放射線特集）」（9 月 10 日発行）他

#### (3) 放射線測定結果

##### ア 空間線量の状況

本市の空間線量は、保育園・小中学校・公園など平成 24 年 3 月末時点で約 4,300 施設の空間線量測定の結果や、文部科学省の航空機モニタリングの結果から特に問題のない値であることを確認しています。ごく局所的に周囲より高い放射線量が測定される、いわゆるマイクロスポットに対しては、保育園・小中学校をはじめ公園・道路などの測定を優先し、対策をすすめています。

##### イ 放射性物質の検査

食品については、市内でと畜される牛の全頭検査をはじめ、市内産や中央卸売市場に流通する青果物、魚介類についての検査を実施しています。市立小学校の給食については、毎日 1 校で使用する全食材について使用前日に検査を行っています。

### 3 今後の対応

平成 24 年度も引き続き、子どもの安全を最優先に、小中学校や保育所などのマイクロスポット対策を実施し、平成 24 年 8 月からは保育園給食の食材検査や一食まるごと累積線量調査を開始するなど、対策を充実しています。